

## 研究報告

# 看護系大学生の学習意欲に影響を及ぼす要因 —看護師の理想イメージ、看護学生の自己イメージ、志望動機、 希望進路の観点から—

Effective factors for learning motivation among college students.

Focus on the ideal images of nurses, self-images among college students, perceptions of prospective college students, and career choices.

古川秀敏<sup>1)</sup>, 小出水寿英<sup>2)</sup>, 山口恭平<sup>3)</sup>, 西垣里志<sup>4)</sup>, 門脇千恵<sup>4)</sup>

1) 関西看護医療大学 看護学部 地域・在宅看護学領域

2) 関西看護医療大学 看護学部 精神看護学領域

3) 関西看護医療大学 看護学部 成人・老年看護学領域

4) 前 関西看護医療大学 看護学部

Hidetoshi Furukawa<sup>1)</sup>, Toshihide Koizumi<sup>2)</sup>, Kyohei Yamaguchi<sup>3)</sup>,  
Satoshi Nishigaki<sup>4)</sup>, Chie Kadowaki<sup>4)</sup>

1) Kansai University of Nursing and Health Sciences, Faculty of Nursing, Community Health and Home Healthcare Nursing

2) Kansai University of Nursing and Health Sciences, Faculty of Nursing, Psychological Nursing

3) Kansai University of Nursing and Health Sciences, Faculty of Nursing, Adult and Gerontological Nursing

4) Kansai University of Nursing and Health Sciences, Faculty of Nursing, (previous job)

## 要約

先行研究において看護系大学生が抱く看護師の理想イメージとして抽出された『看護師の資質を表す理想イメージ』『看護師の冷静さと権威を表す理想イメージ』『看護師の清らかさを表す理想イメージ』『看護師の女性らしさを表すイメージ』の4因子、学生自身の自己イメージとして抽出された『理想の看護師の資質と合致する自己イメージ』『自身のポジティブさを表すイメージ』『自身のネガティブさを表すイメージ』の3因子および志望動機、希望する卒業後の進路が、学生の学習意欲にどう影響するかを検証することを目的に、A看護大学生229名分の質問票を分析した。その結果、本調査の対象者における学習意欲への影響要因として、『看護師の資質と合致する自己イメージ』( $\beta = .409, p = .000$ ), 『志望理由 医療関係の分野に興味があるから』( $\beta = .178, p = .002$ ), 『看護師の清らかさを表すイメージ』( $\beta = .208, p = .001$ ), 『看護師の冷静さと権威を表すイメージ』( $\beta = .154, p = .016$ )の関与が示唆された。

キーワード：看護師, 理想イメージ, 自己イメージ, 学習意欲

Keywords : Nurse, Ideal images, Self-images, Learning motivation

## I. はじめに

近年の経済不況は、若者の就職へも影響し、資格取得は就職時に有利とされる。それを反映してか、大学全入時代を迎えたとはいえ、看護系大学の志願者数は増加している（河合塾，2015）。これらの受験生のなかには、看護師になりたいという本人の意思というよりはむしろ、両親や知人の勧めにより志願する学生も少なくないと思われる。そのような学生においては、決して学習意欲が高いとはいえない状況を生じさせる可能性が推測される。人の行動は、必ずしも具体的・実証的知識に基づくものではなく、漠然とした印象に左右されることは少なくないとされる（吾郷，1996）。すなわち、看護学生が抱く看護師へのイメージが、自身の学習意欲に影響することが容易に推測される。

看護系大学生の抱く看護師のイメージについて、門脇ら（2001）は、268名の看護系大学生が抱く看護師の理想像を調査し、「コミュニケーションが上手」「信頼できる」「やりがいのある」「責任感のある」「テキパキ」「親しみやすい」「専門的」「将来性がある」など23項目が高い評定であったことを報告している。また、工藤ら（2003）は、71名の看護系大学生について看護のイメージを調査し、「看護の特性因子」「看護の価値因子」「看護師の外観因子」「看護の労働性因子」「看護師の知的因子」の5因子を報告している。江口ら（2006）は、看護系大学生266名を対象に、看護師のイメージの因子構造を調査し、「やすらぎ型イメージ」「専門職熟練型イメージ」「美的調和型イメージ」「安全配慮型イメージ」の4因子を明らかにしている。このように看護系大学生における看護師のイメージについてはいくつかの知見が得られている。

理想とする看護師イメージと看護学生自身の自己イメージ、すなわち、将来、医療職に就くであろう学生自身の理想自己と現実自己の相違は看護学を修めようとする姿勢にも大きく影響すると思われる。医療技術の進歩により、看護師には患者の様々なニーズに対するきめ細かなケアを提供する能力が求められている。しかしながら、理論や知識に基づく知力の育成を重視する看護基礎教育と臨床現場が求める実践能力とのあいだにはギャップがあり、新人看護師のリアリティ

ショックが問題となっている（内山，2005）。これは新人看護師あるいは学生時代に抱いていた看護師の理想像と現実の自己像との乖離を意味するといえよう。ロジャーズは理想自己と現実自己の乖離は心理的に不安定にさせるとしている（Kirschenbaum & Henderson, 1989 / 伊藤 & 村山，2001）。命を扱う現場で働く看護師イメージと看護学生自身の自己イメージとの乖離は、看護師になることを躊躇させ、学習を妨げるのではないかと推測する。理想とする看護師のイメージおよび看護学生自身の自己イメージの学習意欲や学習態度への影響が明らかとなれば、今後の看護教育における指導方法に資する資料が得られるものと考えられる。特に、学年を重ねる中で進路に悩む学生は少なくはなく、それらの学生が高いモチベーションをもって学習を継続できるようにする基礎資料が得られるものと考えられる。また、学生の属性や希望する卒業後の進路なども学習意欲に関わることが予想される。これらの関係が明らかとなれば、座学だけでなく実習といったストレスの高い状況においても、学生が高い学習意欲をもち続けることが可能となる方略の糸口になるのではないかと考えた。

そこで、本研究では、看護学生が抱く看護師の理想イメージや看護学生自身の自己イメージ、志望動機や希望する進路などが学習意欲にどのように影響するかを検証することを目的とする。

## II. 方法

### 1. 研究デザイン

関連探索的研究デザイン

### 2. 測定尺度

看護師に対する理想イメージおよび自己イメージについては、白井ら（1999）が作成した64項目の質問票から「白衣」「キャップ」などといった外見イメージ等を除いた58項目を用いた。これらは「誠実な」「やさしい」といった形容詞的な表現によって代表されるイメージによって構成されている。各項目に対して「弱い」から「強い」までの4段階で評価してもらい、各評価に対して1から4点の点数を与え、点数が高いほど質問項目に代表されるイメージが高くなるよう点数化し

た。看護師に対する理想イメージは、「技術の熟達」「専門的」「観察力を要す」「テキパキ」「コミュニケーションが上手」など19項目から構成された『看護師の資質を表す理想イメージ』,「威圧的」「恐ろしい」「冷たい」「陰険な」「きびしい」「プライドが高い」の6項目から構成された『看護師の冷静さと権威を表す理想イメージ』,「やさしい」「清楚な」「清潔な」「誠実な」「あたたかい」の5項目から構成された『看護師の清らかさを表す理想イメージ』,「美人」「かわいい」「育ちの良い」「女らしい」より構成された『看護師の女性らしさを表すイメージ』の4イメージである(古川ら, 2016)。学生自身の自己イメージは「応用力がある」「専門的」「技術の熟達」「テキパキ」など16項目より構成された『理想の看護師の資質と合致する自己イメージ』,「明るい」「親しみやすい」「活発な」などの10項目より構成された『自身のポジティブさを表すイメージ』,「恐ろしい」「威圧的」「気が強い」などの7項目から構成された『自身のネガティブさを表すイメージ』の3イメージである(古川ら, 2016)。

学習意欲には永嶋(2001)の学習意欲尺度を使用した。これは、「学習態度」(14項目),「リーダーシップ能力」(7項目),「演習・実習への取り組み」(4項目),「将来に対する展望」(5項目),「小集団での課題遂行能力」(3項目)の下位尺度から構成された33項目の質問票である。「非常に当てはまる」から「全く当てはまらない」までの4段階で回答を求めた。回答に対しては1点から4点を与え,点数が高いほど学習意欲が高いことを示すようにした。したがって,学習意欲尺度がとり得る値の範囲は33点から132点であり,下位尺度では学習態度で14点から56点,リーダーシップ能力で7点から28点,演習・実習への取り組みで4点から16点,将来に対する展望で5点から20点,小集団での課題遂行能力で3点から12点である。

そのほかの項目として,年齢,性別のほか,志願理由,希望進路など学習意欲に関する項目を収集した。

### 3. データ収集および分析方法

#### 1) データ収集の方法

A大学の看護学生(以下,研究協力者とする)に,同大学の講義室に集合していただいた。研究協力者に,研究の目的及び概要を,文書を用いて口頭で説明した。講義室内で質問票への回答を依頼した。なお,質問票への回答および回収をもって研究参加への同意とした。374部を配布し回収された289名分の質問票のうち(回収率:77.2%),質問票のいずれかの項目に欠損値があった質問票を除き229名分の質問票を分析対象とした(有効回答率61.2%)。

データの収集期間は20XX年4月である。

#### 2) データ分析方法

学習意欲およびその下位尺度の代表値の算出には記述統計を使用した。研究協力者の性別,学年,志願理由,希望進路と学習意欲の関係について,2群間の平均値の比較にはMann-WhitneyのU検定,3群以上の間の平均値の比較にはKruskal-Wallisの検定およびその後の検定としてBonferroniの補正を用いたMann-WhitneyのU検定を行った。看護師に対する理想イメージの4因子,自己イメージの3因子,および学習意欲と関連が示唆された研究協力者の属性や志願理由,希望進路を独立変数とし,学習意欲を従属変数とした重回帰分析を行った。

統計解析には統計パッケージソフトSPSS statistics ver.22を用いた。

#### 3) 倫理的配慮

研究協力者には研究の目的と具体的な方法を,説明文書を用いながら,口頭で説明を行った。具体的には,1)個人情報保護法に則り,知り得た情報の管理を行うこと,2)プライバシーの保護に十分気を遣い,研究協力者の施設での個人が特定しない形式に変換し,記号化すること,3)収集されたデータは,外付けのハードディスクのみバックアップデータを保存し,作業が終わるたびに研究代表者の研究室の鍵のかかる書棚に保存することで外部への流出を防ぐ対応をとること,4)研究終了と同時に質問票はすべてシュレッダーにかけるとともに,入力データおよび解析結果はハードディスクから完全に削除することなどを説明した。あわせて,参加は自由意志であるこ

と、参加協力をしなくても不利益をこうむらないこと、質問紙の提出をもって研究参加に同意となることも説明した。

### Ⅲ. 結果

#### 1. 学習意欲およびその下位尺度と研究協力者の属性の関連

研究協力者全体における学習意欲得点は  $80.1 \pm 12.6$  点であった(表1)。また、下位尺度の得点は、学習態度が  $32.7 \pm 7.0$  点、リーダーシップ能力が  $15.9 \pm 4.0$  点、演習・実習への取り組みが  $10.4 \pm 2.2$  点、将来に対する展望が  $14.0 \pm 2.1$  点、小集団での課題遂行能力が  $7.1 \pm 1.7$  点であった。男性の学習意欲得点は  $81.0 \pm 15.2$  点、女性が  $79.8 \pm 11.6$  点と有意な差は認めなかった。学年による比較を行った結果、学習意欲、学習態度、演習・実習への期待で有意な差を認めた(学習意欲: 1年生 > 2年生, 1年生 > 3年生; 学習態度: 1年生 > 2年生, 1年生 > 3年生; 演習・実習への期待: 1年生 > 2年生, 1年生 > 3年生, 1年生 > 4年生)。

志望動機では医療関係の分野に興味があった学生(該当:  $83.9 \pm 10.2$  点, 非該当:  $78.3 \pm 13.3$  点,  $p < .001$ )において有意な差を認めた(表2)。

卒後の進路との関連では、看護師として働きたい(該当:  $80.5 \pm 12.6$  点, 非該当:  $73.9 \pm 11.6$  点)、大学院への進学において有意な差を認めた(進学希望:  $88.3 \pm 9.4$  点, 進学非希望:  $79.5 \pm 12.6$  点,  $p < .01$ ) (表3)。家族における医療関係者の有無、研究協力自身の入院経験の有無、家族における入院経験の有無では、有意な差は認めなかった(表4)。

#### 2. 看護師の理想イメージおよび自己のイメージと学習意欲との関連

学習意欲を従属変数とし、学習意欲との関連がうかがわれた学年、志望動機の『医療関係の分野に興味があった』、卒後の進路の『看護師として働きたい』『大学院進学希望』、看護師の理想イメージとして『看護師の資質を表す理想イメージ』『看護師の冷静さと権威を表す理想イメージ』『看護師の清らかさを表す理想イメージ』『看護師の女性らしさを表すイメージ』の4因子、研究協力者

の自己イメージとして『理想の看護師の資質と合致する自己イメージ』『自身のポジティブさを表すイメージ』『自身のネガティブさを表すイメージ』の3因子を独立変数としたステップワイズ式重回帰分析を実施した。その結果、『看護師の資質と合致する自己イメージ』( $\beta = .409, p = .000$ )、『志望理由 医療関係の分野に興味があるから』( $\beta = .178, p = .002$ )、『看護師の清らかさを表すイメージ』( $\beta = .208, p = .001$ )、『看護師の冷静さと権威を表すイメージ』( $\beta = .154, p = .016$ )の影響を認めた(表5)。なかでも、『看護師の資質と合致する自己イメージ』の $\beta$ 値は.409と最も高かった。

### Ⅳ. 考察

#### 1. 学習意欲と研究協力者の属性、志望理由、卒後の進路

学習意欲への関与がうかがわれた項目は、学年、志望理由『医療関係の分野に興味があるから』、卒後の進路の『看護師として働きたい』『大学院進学希望』であった。

学年では、1年生の方が学習態度、演習・実習への取り組みの下位尺度において、他の学年よりも高い傾向を示した(学習態度: 1年生 > 2年生, 1年生 > 3年生; 演習・実習への取り組み: 1年生 > 2年生, 1年生 > 3年生, 1年生 > 4年生)。本調査を行ったのが4月であり、特に1年生では大学生活という新たな環境におかれたため、点数が高くなったものと推測する。この1年次の学習に対するモチベーションが保ち続けられるような教授方法の工夫が必要といえよう。

志望理由では『医療関係の分野に興味があるから』(該当:  $84.0 \pm 9.9$  点, 非該当:  $79.1 \pm 13.2$  点)において、学習意欲に有意な差が認められた。A大学は単科の看護大学であるため、入学する学生の目的は、将来、保健や医療の現場で働くことといえる。医療分野への関心の高さは、自身が学ぼうとする看護学と関連するため、学習意欲に有意な差が生じたのではないかと推測する。同様に、卒業後の進路における『看護師として働きたい』は、看護師となり看護師として医療に従事したいという明確な目的であり、学習意欲を高めたものと推測する。

また、卒後の進路では『大学院進学希望』にお

表 1 研究協力者の性別、学年と学習態度との関連

学習態度およびその下位尺度	Mean ± SD										
	研究協力者全体 (n=229)	性別 a				p	学年 b				p
		男性 (n=58)	女性 (n=171)	1年生 (n=59)	2年生 (n=68)		3年生 (n=62)	4年生 (n=40)			
学習意欲	80.1±12.6	81.0±15.2	79.8±11.6	84.0±10.0	78.5±14.1	77.6±14.2	81.1±9.3	**c			
学習態度	32.7±7.0	32.7±8.2	32.7±6.6	35.4±5.7	31.4±7.6	31.5±7.8	32.9±5.6	**c			
リーダーシップ能力	15.9±4.0	16.6±4.6	15.7±3.7	16.2±3.8	15.6±4.5	15.6±3.9	16.7±3.3				
演習・実習への取り組み	10.4±2.2	10.6±2.4	10.3±2.1	11.4±2.1	10.2±2.4	10.1±2.1	9.9±1.5	**d			
将来に対する展望	14.0±2.1	13.8±2.5	14.0±2.0	13.7±1.9	14.2±2.2	13.6±2.2	14.5±2.0				
小集団学習での課題遂行能力	7.1±1.7	7.4±2.0	7.1±1.6	7.4±1.8	7.2±1.8	6.9±1.8	7.2±1.3				

\*:  $p < .05$ , \*\*:  $p < .01$ , \*\*\*:  $p < .001$

a: Mann-Whitney-U 検定, b: Kruskal-Wallis の検定, c: Bonferroni の補正による Mann-Whitney の U 検定(1年生>2年生, 1年生>3年生),

d: Bonferroni の補正による Mann-Whitney の U 検定(1年生>2年生, 1年生>3年生, 1年生>4年生)

表 2 志望理由と学習意欲の関連

学習意欲および その下位尺度	Mean ± SD											
	希望する学部であった		家から近かったから		授業料が安かったから		家から離れたところに住みたかったから		オープンキャンパスに参加して興味を持ったから		パンフレットやホームページを見て興味があったから	
	該当 (n=139)	非該当 (n=90)	該当 (n=35)	非該当 (n=194)	該当 (n=13)	非該当 (n=216)	該当 (n=18)	非該当 (n=211)	該当 (n=32)	非該当 (n=197)	該当 (n=17)	非該当 (n=212)
学習意欲	81.3±12.2	78.2±13.1	79.6±9.5	80.2±13.1	79.3±12.3	80.2±12.7	76.4±15.0	80.4±12.4	82.2±10.0	79.8±13.0	84.4±9.8	79.8±12.3
学習態度	33.3±6.7	31.8±7.5	32.2±5.8	32.8±7.3	31.7±6.4	32.8±7.1	31.2±8.0	32.8±7.0	34.3±6.4	32.4±7.1	35.6±6.0	32.5±7.1 *
リーダーシップ能力	16.2±3.9	15.5±4.1	15.3±3.6	16.0±4.0	15.8±3.6	15.9±4.0	14.8±3.8	16.0±4.0	15.2±3.5	16.1±4.0	15.6±4.5	16.0±3.9
演習・実習への取り組み	10.4±1.9	10.4±2.5	11.0±2.2	10.3±2.1	10.7±1.9	10.4±2.2	10.1±1.6	10.4±2.2	11.4±1.8	10.3±2.2 **	11.1±1.5	10.4±2.2
将来に対する展望	14.1±2.1	13.7±2.1	14.0±1.7	13.9±2.2	13.5±1.7	14.0±2.1	13.4±1.9	14.0±2.1	14.4±1.7	13.9±2.2	14.7±1.9	13.9±2.1
小集団での課題遂行能力	7.4±1.6	6.8±1.8 *	7.1±1.6	7.1±1.8	7.7±1.5	7.1±1.7	6.9±1.7	7.2±1.7	7.0±1.5	7.2±1.8	7.4±1.9	7.1±1.7

  

学習意欲および その下位尺度	Mean ± SD											
	4年制の大学だから		医療関係の分野に興味があるから		資格をとれば就職に困らないから		家族や知人にすすめられたから		進路相談の先生に勧められたから		希望する大学に行けなかったから	
	該当 (n=95)	非該当 (n=134)	該当 (n=76)	非該当 (n=153)	該当 (n=87)	非該当 (n=142)	該当 (n=34)	非該当 (n=195)	該当 (n=31)	非該当 (n=198)	該当 (n=84)	非該当 (n=145)
学習意欲	80.7±12.1	79.7±12.9	83.9±10.2	78.3±13.3 ***	80.0±12.7	80.2±12.6	79.2±11.2	80.3±12.9	81.7±8.8	79.9±13.1	79.6±13.7	80.4±12.0
学習態度	32.9±6.8	32.6±7.2	35.0±6.0	31.5±7.3 ***	32.8±6.9	32.6±7.1	33.1±6.7	32.6±7.1	33.4±5.4	32.6±7.3	32.4±7.3	32.9±6.9
リーダーシップ能力	16.1±3.9	15.8±4.0	16.4±3.8	15.7±4.0	16.0±3.8	16.0±3.8	15.1±4.5	16.1±3.9	16.1±3.8	15.9±4.0	16.2±4.2	15.±3.8
演習・実習への取り組み	10.5±2.0	10.3±2.3	10.9±1.8	10.2±2.3 *	10.6±2.2	10.3±2.1	10.7±2.1	10.4±2.2	10.7±2.1	10.4±2.2	10.0±2.3	10.7±2.0 **
将来に対する展望	14.0±2.1	13.9±2.1	14.4±2.2	13.8±2.1 *	13.8±2.2	14.1±2.1	13.5±2.2	14.0±2.1	14.4±2.0	13.9±2.1	13.9±2.2	14.0±2.1
小集団での課題遂行能力	7.2±1.7	7.1±1.8	7.3±1.6	7.0±1.8	7.1±1.9	7.1±1.7	6.8±1.8	7.2±1.7	7.1±1.6	7.1±1.8	7.2±1.9	7.1±1.6

Man-Whitney の U 検定, \* : p<0.05, \*\* : p<0.01, \*\*\* : p<0.001

表3 卒後の進路と学習意欲の関連

学習意欲および その下位尺度	Mean±SD														
	看護師として働きたい			保健師として働きたい			養護教諭として働きたい			看護とは別の分野で働きたい					
	該当 (n=215)	非該当 (n=14)	P	該当 (n=41)	非該当 (n=188)	P	該当 (n=26)	非該当 (n=203)	P	該当 (n=16)	非該当 (n=213)	P	該当 (n=11)	非該当 (n=218)	P
学習意欲	80.5±12.6	73.9±11.6	*	80.7±11.3	80.0±12.9		81.3±11.0	80.0±12.8		88.3±9.4	79.5±12.6	**	73.9±8.8	80.4±12.7	
学習態度	32.9±7.1	30.0±5.0		32.3±6.9	32.8±7.1		33.7±6.1	32.6±7.2		37.3±6.6	32.3±7.0	**	29.3±5.2	32.9±7.1	
リーダーシップ能力	15.9±4.0	16.1±4.3		16.5±3.8	15.8±4.0		16.2±3.9	15.9±4.0		17.9±4.4	15.8±3.9	*	15.3±3.3	16.0±4.0	
演習・実習への取り組み	10.5±2.1	8.4±2.3	**	10.2±2.4	10.5±2.1	*	10.2±2.2	10.4±2.2		11.4±2.1	10.3±2.1	*	9.2±1.7	10.5±2.2	
将来に対する展望	14.0±2.1	13.5±2.3		14.5±2.0	13.8±2.1		14.2±1.7	13.9±2.2		14.3±1.8	13.9±2.1		13.5±1.6	14.0±2.1	
小集団での課題遂行能力	7.2±1.7	6.2±1.7		7.1±1.7	7.1±1.8		7.1±1.8	7.1±1.7		7.4±1.8	7.1±1.7		6.7±1.9	7.2±1.7	

Man-WhitneyのU検定, \* : p<.05, \*\* : p<.01, \*\*\* : p<.001

いて学習意欲の有意な差を認めた(該当: 87.4 ± 10.6点, 非該当: 79.1 ± 12.5点)。該当する学生は大学院においてさらに高度な学習をしたいと希望していると推測され, 学習意欲が高くなったものと考えられる。

## 2. 学習意欲と研究協力者の属性と自己イメージ, 看護師に対する理想イメージの関連

重回帰分析の結果, 学習意欲には『看護師の資質と合致する自己イメージ』(β =.409, p=.000), 『志望理由 医療関係の分野に興味があるから』(β =.178, p=.002), 『看護師の清らかさを表すイメージ』(β =.208, p=.001), 『看護師の冷静さと権威を表すイメージ』(β =.154, p=.016)の関与が示唆された。(表5)。

看護学生自身の自己イメージでは『看護師の資質と合致する自己イメージ』のみが, 学習意欲に影響していた。これは, 看護師として有すべき資質を自身が有しているということを客観視しているものと推測する。また, 本研究の研究協力者は, 1年生を除き, 病院や施設での実習を経験している。実習では自己の行動を振り返り, 客観視することも求められる。この振り返りをおして自身に看護師としての資質を有しているかどうかを自己評価しているものと推測する。くわえて, 看護師の資質と合致する自己イメージを有することは, 看護師が自分自身の適職であることを自認することにつながると推測される。理想とする自己と現実の自己が合致することは心的な安定をもたらすとされており(Kirschenbaum & Henderson, 1989 / 伊藤 & 村山, 2001), 理想とする看護師のイメージと自己イメージとの合致がさらに学習意欲を高めたと推測する。したがって, 看護師としての資質として重要とされる言動が学生にみられた場合, それを学生にフィードバックすることが学習意欲の維持, 向上に有効と考える。

看護師に対する理想イメージでは, 『看護師の清らかさを表すイメージ』および『看護師の冷静さと権威を表すイメージ』の関連を認めた。本研究における『看護師の清らかさを表すイメージ』も「やさしい」「清楚な」「清潔な」「誠実な」「あたたかい」から構成されており, 非常にポジティブなイメージであるといえる。この看護師に対す

表 4 家族における医療従事者の有無, および自身・家族の入院経験の有無と学習意欲の関連

学習態度および その下位尺度	Mean±SD								
	家族における 医療関係者の有無			自身の入院経験の有無			家族の 入院経験の有無		
	いる (n=91)	いない (n=138)	<i>p</i>	あり (n=96)	なし (n=133)	<i>p</i>	あり (n=191)	なし (n=38)	<i>p</i>
学習意欲	79.3±14.5	80.7±11.2		81.6±11.8	79.1±13.1		80.6±11.8	77.7±16.2	
学習態度	32.2±8.0	33.0±6.4		33.7±6.5	32.0±7.4		33.0±6.8	31.4±7.9	
リーダーシップ能力	15.7±4.3	16.1±3.7		16.4±4.1	15.6±3.9		16.1±3.9	15.1±4.2	
演習・実習への取り組み	10.23±2.3	10.5±2.0		10.5±2.1	10.3±2.2		10.5±2.1	10.2±2.6	
将来に対する展望	14.0±2.2	13.9±2.0		14.0±2.1	14.0±2.2		14.0±2.0	13.7±2.7	
小集団での 課題遂行能力	7.1±2.0	7.2±1.6		7.1±1.6	7.2±1.8		7.1±1.7	7.3±2.1	

Man-Whitney の U 検定, \* ; *p*<.05, \*\* ; *p*<.01, \*\*\* ; *p*<.001

表 5 研究協力者の看護師に対する理想イメージ, 自己イメージ, および進学動機の学習意欲への影響

項目	回帰係数	標準化係数 β	<i>p</i>	VIF
看護師の資質と合致する自己イメージ	.504	.409	.000	1.039
志望理由 医療関係の分野に興味があるから	4.754	.178	.002	1.019
看護師の清らかさを表すイメージ	.852	.208	.001	1.276
看護師の冷静さと権威を表すイメージ	.463	.154	.016	1.258

ANOVA : *p*<.05, R=.530, 決定係数 R<sup>2</sup>=.281, 調整済み R<sup>2</sup>=.269

るポジティブな理想イメージが看護師になりたいとする気持ちを強化させ、学習意欲に影響したと推測する。一方、『看護師の冷静さと権威を表すイメージ』は、命を取り扱う現場において、冷静沉着に対応する専門職としてのイメージと考えられる。患者を慮る態度と何事にも動じることなく冷静にケアを実施するという看護師の専門性を表す明確なイメージを有することが学習意欲に影響したものと推測される。交野と高島 (2012) は、看護に対するイメージと現実のイメージの差が大きいほど、学習を積み重ねても将来の目標に繋がらなかつたり、看護のやりがいを感じられなかつたりしていることが明らかにしている。学生が理想とする看護師のイメージを保ち続けることが重要といえる。森ら (2005) は看護が大学生の理想の看護師像の記述より、専門職者としての特性を

理解する段階、看護の専門的知識を習得し看護の方法を理解する段階、理想の看護職としてあるべき自己の姿を明確化する段階の3つのプロセスの存在を明らかにし、学生が目指す理想の看護師像をより具体的に描けるような教育方法や創造的な授業が必要であるとしている。したがって、看護の専門性を学生に十分に理解させることが、看護師の理想イメージを鮮明にさせ、学習意欲を高める方略となると考える。

志望動機では『医療関係の分野に興味があるから』のみの関連を認めた。高山 (2000) は、大学生の学習観について「興味・関心」が「主体的探究」および「理解」という因子に含まれた構造であったことを明らかにし、興味・関心を持つことは、学生が自律的に行うことを意味し、必然的に深い理解や追及が生まれるとしている。これに則



れば、医療分野における興味は、学生自身の内部から生じる医療分野における知的的好奇心といえ、さらに深い理解や知識の獲得を目指す学習意欲へと影響したと考えられる。中山ら（2012）は、看護技術教育における Web 教材の学習意欲への効果を報告している。医療関係に興味を有する学生の知的的好奇心を支えるためにも、学内だけでなく自宅からも興味ある科目の資料等が閲覧できるオンデマンド型の学習教材の整備などが今後求められるといえよう。くわえて、看護を教授する教員は、学生が医療分野への興味を持てるような、そして、興味を持ち続けられるような授業の工夫が必要と考える。さらに、学生に対し最新の医療、看護の情報を提供するなど、教員の持てる知識のアップデートもまた必要と考える。

## V. おわりに

本調査結果は、看護系大学 1 校における調査であるため、看護学生を代表するサンプルではない。今後はサンプルを増やす必要がある。同時に、今回の研究は横断的研究であり、看護学生の学習意欲が経時的に変化するかどうかについては検討していない。この点についてもさらなる調査が必要と思われる。

## 謝辞

本研究に参加いただきました看護学部の学生の皆様に感謝いたします。

## 文献

吾郷ゆかり（1996）：看護学生の看護婦イメージ—動機と性格特性との関連における分析，鳥根県立看護短期大学紀要，1，pp.17-23.  
江口瞳，寺澤孝文（2006）：看護師イメージの因子構造と学年進行による看護師イメージ得点の変化，日本看護研究学会雑誌，29（4），pp.71-80.  
門脇千恵，佐々木和義，中田康夫，真嶋由貴恵，渡辺真理，河口真奈美，白井千津（2001）：看護系大学生が抱く看護婦・士に対する現実像と理想像とマスメディア像，日本看護学会誌，10（1），pp.18-24.  
工藤由紀子，石井範子，平元泉，佐々木真紀子，

長谷部真木子（2003）：看護大学生の看護に対するイメージ—入学時における家族背景・入学動機と卒業後進路志望との関連から，秋田大学医学部保健学科紀要，11（2），pp.119-126.

Kirschenbaum, H., & Henderson, V. L. (1989) / 伊藤 & 村山（2001）：ロジャーズ選集（上）カウンセラーなら一度は読んでおきたい厳選 33 論文，pp.286-313, 誠信書房，東京．

古川秀敏，小出水寿英，山口恭平，西垣里志，門脇千恵（2016）：看護系大学生の抱く看護師理想イメージおよび看護系大学生自身の自己イメージの構造，関西看護医療大学紀要，8（1），pp.19-26.

交野好子，高鳥真理子（2012）：看護学生の学習体験に影響を及ぼす因子に関する研究，福井県立大学論集，39，pp.87-98.

森美春，西山ゆかり，木戸久美子（2005）：四年制大学の看護学生における職業準備性，滋賀医科大学看護学ジャーナル，3（1），pp.55-63.

永嶋由理子（2001）：看護学生の学習意欲の検討，山口県立大学看護学部紀要，5，pp.39-45.

中山栄純，城戸 滋里（2012）：看護学生の学習意欲向上を目指した Web 教材導入による看護技術教育の取り組み，大学教育と情報，2，pp.17-19.

高山草二（2000）：大学生の学習観の特徴と構造．鳥根大学教育学部紀要（人文・社会科学），34，pp.1-10.

内山久美，大澤早苗，横山孝子（2005）：職業的社会化と看護学生の意識—オープンキャンパス参加者の声と入学後の「看護イメージ」から—，保健科学研究誌，2，pp.79-85.

白井千津，中田康夫，佐々木和義，真嶋由貴恵，渡部真理，河口真奈美（1999）：看護婦自身が抱く現実と理想，マスメディアのイメージの差，神戸市看護大学，3，pp.113-122.